

**様式（文部科学省ガイドライン準拠版）**

**令和4年度**

**自己評価報告書**  
(専門学校等評価基準 Ver. 4.0 準拠版)  
【ダイジェスト版】

令和5年1月12日～2月8日評価 実施  
令和5年3月29日評価報告

**学校法人北工学園**

# 1 学校の理念、教育目標

教育理念	教育目標
<p>1975（昭和50）年旭川福祉専門学校開校時より一貫して建学の精神である「敬天愛人」を教育理念として掲げている。</p> <p>西郷隆盛の遺訓の中に謳われている「敬天愛人」は次のとおり「天は人も我も同一に愛す。故に我を愛する心をもって人を愛すべし」解され、天とは即ち価値体系の総和と捉え、これが具体的に展開された形が愛人である。</p> <p>価値に対して敬虔であり、社会的活動に主体性と情熱をもって取り組むこころ、言い換えるならば清純にして無垢、没我的犠牲のこころを以って福祉活動に献身しようとする人材の育成を教育の理念とする。</p> <p>この建学の理想を、「敬天愛人」の四文字に凝集し、この精神のもとに、福祉のこころを心とする人材の養成を期するものであります。</p>	<p>1、「福祉のこころ」を心とする人材の養成 敬天愛人の建学の精神のもとに、福祉のこころを心とする人材の養成を教育の目標とする。 それは①自主的、積極的な職業実践態度の確立と、 ②深奥に惻隱のこころをたたえた豊かな人間性の涵養に、 教育の目標を置く。</p> <p>2、「凡事徹底」 だれもが、できるあたりまえのこと（挨拶、返事、掃除等々）をあたりまえにできる（凡事を徹底する）ことにより、職業人としての機転（気づき）、技巧、利他的社会行動といった職業専門性（非凡なる能力）の確立を目指す。</p> <p>3、アジアの青年が学びあい、国際社会に貢献する学生の養成 国際化の進む東川町にあって日本語学科を擁する本校として言語だけではなく日本文化を一町民として留学生が学ぶことができ、加えて学内において日常的に日本人と交流し、また日本人学生も留学生と交流する環境を最大限活用して、外国人日本人を問わず国際化社会に貢献できる人材を養成する。</p>

## 2 本年度の重点目標と達成計画

令和4年度重点目標	達成計画・取組方法
<p>1、学校運営の重点目標 「コロナ禍にあっても学生の学校生活を守り、教育の質を最大限保障する学校」 新型コロナウイルス感染症から学生の学校生活を守る。なおかつ社会的評価・信頼にこたえる教育の質を学生に対し最大限保障する。専門教育機関として時代のニーズに応える専門職養成をおこなう。</p>	<p>1、学校運営の重点目標 「コロナ禍にあっても学生の学校生活を守り、教育の質を保障する学校」 ①専門資格の確実な取得 こども学科においては保育士・幼稚園教諭等専門資格の確実な取得 集中講義、個別指導、実習により個別指導を徹底して指導 介護福祉科においては介護福祉士専門資格の確実な取得 1年時よりレベル別学習・模試の実施 医療福祉学科は登録販売者、診療報酬請求事務能力専門資格の確実な取得 資格取得にあわせた学習日程の編成 日本語学科においては日本語能力試験等専門資格の確実な取得 能力クラスの細分化、個別指導、生の日本文化学習 ②学外識者等の意見を取り入れた学校運営 ・学校評価の実施 ・教育課程編成委員会活動の実施</p>
<p>2、教育活動・学修成果・学生支援の重点目標 「コロナ禍にあっても、全学生が自分の目標に到達できる学習を保障する学校」 これまでのコロナ禍の対応の経験値もふまえて、コロナ禍以前の教育活動の回復及び新たな教育活動を模索し全学生に自身の目標に挑戦し到達できる学習を保障する。</p> <p>3、学習環境及び学生募集の重点目標 「コロナ禍にあっても、より豊かな学習環境と充実した学習の機会を提供できる学校」 豊かな自然環境と地域の支援を最大限享受できる学校を目指す。</p>	<p>2、教育活動・学修成果・学生支援の重点目標 「コロナ禍にあっても、全学生が自分の目標に到達できる学習を保障する学校」 ①教育理念・教育目標に沿った日常の教育実践の堅持 ②高等教育修学支援制度認定校としての学習支援 ③職業実践専門課程認定校としての学習支援 ④地域支援活動の継続による学修成果</p> <p>3、学習環境及び学生募集の重点目標 「コロナ禍にあっても、より豊かな学習環境と充実した学習の機会を最大限提供できる学校」 ①地域（東川町及び北海道）に貢献できる人材養成のための環境整備 ②学生募集に際しての支援を継続する</p>

# 基準1 教育理念・目的・育成人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p><b>【総括】</b></p> <p>1975（昭和50）年旭川福祉専門学校開校時より一貫して建学の精神である西郷隆盛の遺訓「敬天愛人」を教育理念として掲げている。</p> <p>敬天愛人の建学の精神のもとに、福祉のこころを中心とする人材の養成を教育の目標とするものである。特に自主的、積極的な研究態度の確立と、深奥に惻隱のこころをたたえた豊かな人間性の涵養に教育の目標としている。</p> <p>理念等を実現するための具体的な目標・計画・方法を単年度の事業計画において定めている。</p> <p>4年度は3年度に引き続いての新型コロナウイルス感染防止の影響により事業計画が大幅に変更、縮小また中止したが、年度後半は感染症収束の兆しがみえ一部教育活動も再開した。新型コロナウイルス感染症拡大の対応に追われた3年間であったが、コロナ禍であっても教育理念を堅持し、次年度につなぐ活動で1年度であった。</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>今後、新型コロナウイルス感染症収束の中でどのように教育理念が実現でき、本校の特色ある職業実践教育が継続できるのかが課題である。教育活動は全く同じ形で回復するものではなく、新たな形での活動を模索する次年度となるが、一層エッセンシャルワーカーの養成は希求されるものであり、関連業界の要請に応える教育活動に取り組みたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回も教職員全体で自己評価事業に取り組み事業の見直しを行った。同じ教職員が例年同じ分野を見直すのではなく極力担当を変えて違う分野を違う視点で見直すよう分担した。</li> <li>学科毎に関連業界等が求める知識・技術・技能・人間性等人材要件を明確にする必要があり、関係企業事業所の意見を聞き、連携を深めていくため教科課程編成委員会を開催するなど取り組んだ。</li> <li>また今年度は学生による授業評価の取組も実施し、教育の質の担保を図る取組を行った。</li> <li>今後より一層特色ある職業実践教育に取組む必要があり、すでにその職業にて活躍、大成している卒業生から積極的な意見を聞き、また連携を深めていく機会を様々な場面でもつ努力を行った。</li> </ul>	<p>本校は自然ゆたかな東川町に位置し、広大な敷地の中で自然に親しみ、教育理念、教育目標を達成するため、「耕生活動」や「地域支援活動」など特徴的な教育活動を実践している。</p> <p>こども学科においては47回を数える「卒業記念発表会」は昨年の無観客開始を今年は観客を迎えての開催とした。2月18日19日町民の方々や卒業生に見守られて学生の成長の時となる活動を行うことができた。また介護福祉科においては10月26日27日に行った「卒業演習発表会」でも4人の実習指導者の方をお迎えして開催した。</p> <p>さらに全校学生が出席して「年末コンサート」は北海道文化財団の協力を頂き、道内で和太鼓等の演奏活動をして居る「乱拍子」をお迎えして開催することができた。</p> <p>コロナ禍での活動の3年目であったが、町や関係機関と連携し、現状に応じた活動を実施した。</p>

## 基準2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）																				
<p>本校の事業計画において方針が定められ運営している。事業計画は教職員会議にて周知している。</p> <p>单年度の事業計画を定めている。校務分掌により業務分担を明確にしている。月例の教職員会議ほかの各部署ごとの会議において事業計画の執行、進捗管理が行われている。</p> <p>運営方針の重点目標である「コロナ禍にあっても学生の学校生活を守り、教育の質を最大限保障する学校」については、コロナ禍でのこれまでの2年間の経験知を踏まえて、最大限教育活動が堅持できる学校運営の取組がなされたと考える。こども学科、介護福祉科においてはコロナ禍で期間の変更や中止、再開等特別な対応が必要であったが、オンライン実習ではなく派遣実習が実施でき実習での学習成果を学生達に提供することができた。これは福祉施設、保育所、こども園等の特段の理解と連携の元に実施できたと考える。</p> <p>学校運営に必要な事務及び教学組織を整備している。現状の組織を体系化した組織規程、組織図等を整備している。各部署の役割分担、組織目標等を規程等で明確にしている。会議、委員会等の決定権限、委員構成等を規程等で明確にしている。会議、委員会等の議事録(記録)は、開催毎に作成している。規則・規程等は、必要に応じて適正な手続きを経て改正している。</p>	<p>今後新型コロナウイルス感染症収束の中でどのように学校運営が正常化できるか、またコロナ禍でのこれまでの2年間の経験知を踏まえて本校の特色ある職業実践教育が継続できるのかが課題である。</p> <p>また引き続き福祉分野へ職業実践教育機関として学生及び教職員の安全確保の学校運営がなされ、教職員の努力によって重点目標を踏み外すことのない運営に取り組む必要がある。</p> <p>校務分掌により業務分担を明確にしているが、月例の教職員会議ほかの各部署ごとの会議において活発な協議がなされより創造的な事業の執行、進捗管理が行われる必要がある。</p> <p>人事運営面については、教職員のキャリア形成を支援するため積極的な研修等の派遣などを働きかける必要がある。</p>	<p>【資格取得受験状況】</p> <p>◎介護福祉科では第35回介護福祉士国家試験、52名全員受験。3月末合否発表のため確認できず。</p> <p>◎日本語学科 JLPT 2022年12月合格情報</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>N 1</td> <td>26名中</td> <td>10名合格</td> <td>38.5%</td> </tr> <tr> <td>N 2</td> <td>52名中</td> <td>31名合格</td> <td>59.6%</td> </tr> <tr> <td>N 3</td> <td>86名中</td> <td>55名合格</td> <td>64.0%</td> </tr> <tr> <td>N 4</td> <td>11名中</td> <td>6名合格</td> <td>54.5%</td> </tr> <tr> <td>N 5</td> <td>1名中</td> <td>1名合格</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table>	N 1	26名中	10名合格	38.5%	N 2	52名中	31名合格	59.6%	N 3	86名中	55名合格	64.0%	N 4	11名中	6名合格	54.5%	N 5	1名中	1名合格	100.0%
N 1	26名中	10名合格	38.5%																			
N 2	52名中	31名合格	59.6%																			
N 3	86名中	55名合格	64.0%																			
N 4	11名中	6名合格	54.5%																			
N 5	1名中	1名合格	100.0%																			

### 基準3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>各学科とも知識・技術に加え豊かなこころを持った人材育成を目指し取り組みを行っている。</p> <p>こども学科においては、幼児教育専攻科と保育福祉専攻科に分かれ、幼児教育専攻科では保育士資格の取得と、短大との通信教育を並行して行う事で幼稚園教諭の免許取得を目標とし、保育福祉専攻科では保育士資格の取得と初任者研修の取得を通して、こどもに限らず障がい者、高齢者と幅の広い福祉を学ぶべく取り組みを行っている。</p> <p>介護福祉科においては、留学生と日本人学生が在籍し、言葉や文化の違いを互いに認め合いながら介護福祉士の取得という同じ目標を目指すと共に、地域支援専門員、福祉住環境コーディネーターといった介護現場で求められる人材育成に力を入れている。</p> <p>医薬福祉学科においては、医薬品販売・医療事務員といった健康のエキスパートとしての人材育成のために登録販売者資格や医療事務管理士、医療秘書検定等の資格取得を目指し取り組みを実施している。</p> <p>日本語学科においては、卒業時までにJLPTにおいてN2を取得し、進学・就職に向け個人のレベルに合わせた取り組みを実施している。</p> <p>各学科ともそれぞれの目標資格を柱とし、資格の取得や合格に向け工夫を行っており、今後においても更なる工夫が課題でもある。</p>	<p>対人援助職として、現場のニーズにこたえられる心豊かな社会人の育成に向け更なる各学科による工夫と、学科間の連携の強化が必要。</p> <p>学校全体で一人ひとりの学生を育てる意識を持ち多様化する学生に向き合う意識の強化が今後においても課題であるといえる。</p> <p>教科課程編成委員会や学校関係者会議等、学校外部からの情報や意見を柔軟に取り入れる姿勢を持ち専門的な職業教育の強化に務める。</p>	<p>コロナ禍にあり、様々な場面で制限がありながらも今何ができるかを常に模索しながら各学科ならびに学校全体で前を向き歩みを進めてきた。</p> <p>東川町の支えの中に存在する学校として、地域との連携を意識した教育活動の工夫と展開の強化が必要だといえる。</p>

最終更新日付 令和5年2月3日 記載責任者 富塚 稔

## 基準4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職率の向上は専門学校の使命であることから、毎年、結果を出して、学生を卒業させている。</p> <p>日本語学科に関しては、就職、進学、帰国と希望の進路が異なり分野も幅広いので、町の部署と連携し、指導している。</p> <p>資格取得に関しては授業時間内だけではなく、放課後を利用したりし、各学科力を入れて対策をしている。しかし、実際は授業についていけない学生のために「補習」という形で指導を行っているという側面もある。通常の授業時間だけで、対策授業などを行い、クラスの実力を底上げできるのが、一番望ましい。</p> <p>試験の結果の分析や、効率的に学生に指導できるように常に教員が自ら、授業の振り返りを行っているか、教員自身の自己評価も必要になってくる。</p> <p>また、そのような余裕を持って働く環境づくりも必須。</p> <p>卒業生の社会的評価については、卒業後の調査をしておらず、毎年多くの卒業生を出している本校のネットワーク作りに活かせていない。</p>	<p>今後も、従来のように各業界と連携し、情報収集し、就職率を維持する。</p> <p>教材や試験の分析など、学生を合格させるために各教員が熱心に、業務にあたっているが、効率的に業務を行えているか、勤務時間内に業務を終わらせ、かつ授業の質も上げていくことを目標に、各教員、学科単位で、業務の無駄、非効率なことを洗い出す必要がある。</p> <p>それにより、余裕のある授業ができ、余裕を持って学生の話を聞き、魅力的な学校づくりができる。</p> <p>ネットワーク作りの是非について、協議する必要がある。</p>	<p>日本語学科の学生に対する求人、学生が自分で開拓する求人先は、春の新卒一括採用ではなく、中途採用が多いので、現在は、面接に受かっても卒業まで待ってくれる企業が少なく、毎年退学し就職する学生が一定数いる。また逆に、就職をあきらめるというケースもある。学生が希望する進路に進めていないという現状もある。</p>

## 基準5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1、就職進路支援 各学科とも就職担当教員を配置し、その他にHR、ゼミナール、グループ等の担当者が学生一人一人のニーズに対応している。</p> <p>2、中途退学への対応 学生の目的意識の変化や日常生活の変化の情報を共有し、中途退学者を減らす努力をしている。しかしながら、新入生の資格取得・就職に対する意識の変化が著しく、素早い分析が必要である。</p> <p>3、学生相談 特に精神的な問題に対しては、各教員と臨床心理士の資格を持つ教員とが連携し対応している。</p> <p>4、学生生活 学費に対して、公的支援制度や本校独自の支援制度を今年も継続している。</p> <p>5、保護者との連携 信頼関係を築くべく、日常生活や健康面などの連絡を密接に行うようにしている。</p> <p>6、卒業生支 卒業生の動向に関しての情報収集が不足している。</p>	<p>毎年多様化が進む学生のニーズを分析し、職員全體で共有していくことが今後においても課題と言える。 そのことは、学生だけでなく出身高校や保護者との連携においても重要である。少子化で全入の時代を迎え、入学前の職業意識の持ち方や勉学に対する意欲をしっかりと分析し高校や保護者と連携していくことは、学生の目標達成への意識を維持し保護者への本学園に対する理解や協力を得るために必要と言える。</p>	<p>経済的支援として、公的な保育士・介護福祉士に対する就学資金貸付制度などの他、留学生には外国人介護福祉人材育成支援協議会による就学資金制度に対応するなど本学園独自の学修支援制度で対応している。</p>

最終更新日付	令和5年 2月 2日	記載責任者	成田 潤子
--------	------------	-------	-------

## 基準6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学習面と環境面の双方で整備していくものはあるが、学校側の年度予算と照らして、必要なものの優先度を考え、対応していく必要がある。</p> <p>1, IT環境と図書室が校舎によって差があるため、少しでも校舎格差を埋めて、学習機会の均一化をはかる。</p> <p>2, 福専農園で育てた野菜を使って学内で収穫祭を行っているが、作物をツールとして地元還元ができないか。</p> <p>3, 各実習室を時代の変化に合わせ、機器や機材の変更や新規導入をしていかなければならない。</p> <p>4, エネルギー価格の高騰による経費増加も懸念される中で、スクールバスを無料で運行し続けられるのか。</p> <p>夏と冬の気温の変化に現在の室内環境では、学生たちが順応しきれなくなっている。設備的な検討が必要だと考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実現可能かどうかは事務局との協議が必要だが、定期的に教職員や学生から教育環境に対する意見や提案を吸い上げてみても良いと思う。</li> <li>・人気のある大学や専門学校の取り組みや設備を検証する動きがあつても良い。</li> <li>・学内の喫煙場所は本当に必要なか再検討し、時代の変化や法令に合わせる。</li> <li>・収入を目的とするわけではないが、現在の環境を維持するための循環コストとして、必要な資金の確保を検討してみてはどうか。(福専農園での収穫物の販売やスクールバスの定額代金徴収など)</li> <li>・校内の現状は、夏は扇風機を使っても暑くて、冬の特に廊下は外と同じくらい寒いため、外気温がそのまま校舎内気温になっていると考えられる。設備を設置する以外にも、気密性をあげて室内温度が保たれるような改修も必要だと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれ愛の郷を利用した地域支援活動。</li> <li>・第一校舎には、介護実習室・入浴実習室・家政学実習室・ピアノ室・乳児演習室がある。</li> <li>・第二校舎には、医薬演習室・パソコン教室・ピアノ室がある。</li> <li>・福専農園の活用。</li> <li>・カンナプロジェクトへの参加。</li> <li>・登下校時の無料スクールバスの運行。</li> </ul>

最終更新日付

令和 5年 2月 3日

記載責任者

二階堂 巧

## 基準7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>子どもの数が年々減っている中で、今までと同じ広報活動のままでは、入学者数は比例して落ち込んでいくことは明白である。</p> <p>1, 年度戦略や目標設定がなく、使用できる年度予算が不明である。</p> <p>2, 地元の旭川大学が今年度の募集から市立化の内容で広報しており、大学の方は志望者が大きく増加した。募集2年目となる次年度は、短期大学の方でも志望者数に動きがあってもおかしくない。</p> <p>3, 現状の広報活動は、ホームページ運用、SNS運用、パンフレット・募集要項作成、オープンキャンパス企画、入学試験の実施、相談会への参加、出前授業、高校訪問、中学生の受入れ、雑誌・WEB媒体への記事投稿などで、最低限の実施すべきことは網羅しているが、それ以上のことはできていない。</p> <p>4, 相談会での学校・学科説明や、オープンキャンパスでの面談のできる教員が限定されている。選ばれる学校にするためにも、まずは教職員が自分の学校を理解し、伝えられるようになっていく必要がある。</p> <p>5, 在校生への対応を見直し、口コミでの評判の伝達を意識する。</p> <p>6, 入学試験の合格基準でいまいな部分がある。また、試験の運用においては現状入試事務局として若干名に負担が偏っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校訪問・相談会参加の地域を今よりも拡大し、市内近郊以外の高校生から選んでもらえるように、認知度向上をはかる。また、地域性をウリにするのであれば、道内外の都市部へのPRも重要となってくる。</li> <li>・新しい年度に向けて、学校としての広報活動の戦略の明示や数値目標の設定をし、それに沿った形で各部署がそれぞれ検討をして動くような組織体制をつくる。</li> <li>・広報に使用できる予算が不明なため、新たな提案がしづらい。学校全体を巻き込んでいくためにも、戦略・目標・予算・課題などは全教職員で共有したい内容である。</li> <li>・説明や面談ができない教員をなくすことで、全員が広報に関われる学校にしたい。理解を深めるためにも教職員学習会が必要なら実施する。もしくは要点をまとめたQ&amp;Aのようなものを作成する。</li> <li>・広報は未来の学生のためだが、まずは目の前の在校生を大切に育てることこそ、最大の広報活動となる。教職員が「敬天愛人」「凡事徹底」の伝道者となり、一つひとつの学生対応が学校の未来につながると捉えたい。</li> <li>・入学試験合格基準を明確にし、書面化する。また、面接試験の公平性のためにも、質問内容の共通項目を設定する。その様な取り組みのためにも、学内に入試委員会を組織し、運用をスムーズにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「高等教育の修学支援新制度」の対象校に認定。(給付型奨学金・授業料等減免)</li> <li>・男子・女子ともに学生寮があり、遠方からの入居者は「地方出身者支援制度」が利用できる。</li> <li>・介護福祉科の留学生は「外国人介護福祉人材育成協議会」の奨学金制度が利用できる。</li> <li>・東川町からの支援として、選抜者は「東川町日本福祉人材育成事業奨学助成金」が利用できる。</li> </ul>

## 基準8 財務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>法人については、2018年度から新たな法人運営体制で専修学校1校の運営となり、長期や短期の借入金等の負債も無く、スリム化された中で運営されている。</p> <p>しかし、私立学校運営の基盤となる学生数の確保については、中長期的に安定しているとは言えない状況の中で、極力支出を抑え、収支のバランスを維持していく必要がある。そのためには常に収支バランスの状況把握と中長期的な事業計画に基づく運営が必要である。</p> <p>また、法人運営体制移行後実施している教職員の給与の昇給や教職員の高年齢化に伴う退職手当の積立、並びに施設・設備の老朽化に伴う改修費用等の財源の計画的な積立が急務となっている。</p> <p>2022年度については、コロナウイルス感染症拡大が長期化していて、経済的なダメージも拡大しており、経営が維持できず倒産や廃止する企業・学校が多数存在する中、財務内容の見直し等を適時実施し、更なる経費の抑制等により、財務体制の課題である教職員の昇給を実施し、退職手当引当金の積立並びに施設・設備の改修費用の積立を実施してもなお、収支のバランスを維持できる見込みをつけられたことは評価することができる。</p> <p>また、このような状況が長期化した場合でも、安定した学校運営が可能な財務体制づくりのため、中長期計画の策定にも引き続き取組んでいく。</p>	<p>学生数確保のための募集方法の検討や広報活動の見直し、昨年度までのような留学生の入学が見込めない場合の国内学生確保方法等を、専門部署主導の下で引き続き検討し方向性を見出す。</p> <p>収支バランスについては、可能な限り設置学科ごとに把握し、隨時検討していく。</p> <p>退職手当引当金の積立は2019年度期末から毎年実施できているが、施設や設備の改修費用の積立も中長期計画の中で引き続き実施していく。</p> <p>合せて、施設や設備の改修・更新等整備計画を早急に作成し、計画的に実施していく。</p> <p>今後、学生数が減少した場合にも収入が見込める新たな収益事業として、留学生の出口対策並びに外国人や留学生の就労サポートを目的とする有料職業紹介・労働者派遣業の収益事業認可申請を今年度末に行う。</p>	<p>本校の設置学科の特色を生かした、職業人材育成のための技術講習や研修による収入の確保等、新たな付帯事業の展開も引き続き検討したい。</p> <p>国内学生確保のため、生活困窮家庭への修学支援として、地元自治体独自の支援を受けられる制度が有り、学生募集段階で個別の相談により運用していく。</p>

最終更新日付

令和5年1月27日

記載責任者

藤田 恵二

## 基準9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>当校は、法人を含め設置学科ごとに管轄省庁が異なり、関係法令も多岐にわたるため管理が難しい。</p> <p>また、各法令も遂次改正が行われるため、情報収集等を細かく行う必要がある。</p> <p>このため各管轄省庁からの関係法令を含めた最新情報を必要な部署の担当者が確認できる決裁にて、最新情報の取込みができる体制としている。</p> <p>セクシャルハラスメント防止を含めたハラスメント防止規定を策定、運用し、ハラスメント防止に取り組んでいる。</p> <p>個人情報保護に関する取扱方針・規程を見直し、実施運用している。</p>	<p>ハラスメント防止規定について教職員全員に機会有る毎に周知し、防止の徹底を図る。</p> <p>個人情報保護に関して規定を運用し保護の徹底に努める。</p>	

最終更新日付

令和5年1月26日

記載責任者

黒田 英敏

# 基準10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>・地域貢献や社会貢献については地域の期待に応えるだけでなく、学生に学びの機会を提供する重要な活動としての側面も持ち合わせており、今後も柔軟で積極的な対応が求められている。一方でその活動を情報発信することの不十分さがあり、正しく現状を伝えきれていらない側面がある。</p> <p>・日本語学科の卒業生は、この3月で454名と実績を伸ばし続けている。介護福祉科においても平成24年から留学生を受け入れており、まさに国際色豊かな学校となっている。道内の自治体・介護福祉施設との連携により発足した、外国人介護福祉人材育成支援協議会も4年目を迎え、留学生受け入れだけではなく、その出口となる就職についても保証できる仕組みを整えるとともに、介護人材不足に対応する社会貢献にも積極的に取り組んできた。しかし、人数が増え国籍が増えしていく中で、宗教や生活習慣、国民性の違いなど、今までにない問題にも柔軟に対応するためには、受け入れ学科のみならず、学校全体や関係各所との情報の共有や対応が必要である。</p> <p>・ボランティア活動については、「でんでん虫サークル」の活動をはじめ、関係各所から高い評価を受け、例年数多くのボランティア依頼をいただいていた。一方で学生数の減少や、学生の経済的な理由によるアルバイト等で、これまでと同じようなボランティア受け入れ態勢がとれなくなっている現状もある。学生の負担にならないような配慮をしつつも、活きた実践の場になるような受け入れ窓口の判断が重要であるといえる。</p>	<p>・本校で取り組んでいる活動を、広く正しく広報することで、より地域住民への一層の理解を深めていきたい。TwitterやInstagram、YouTubeなどネットでの配信や従来の紙媒体での広報など、様々な取り組みを検討、継続していく必要がある。</p> <p>・学生が取り組む「地域支援活動」や「ボランティア活動」については、卒業記念誌『涓滴』を広報媒体として有効に活用することを検討していきたい。</p> <p>・留学生を受け入れている学科のみの問題や課題ではなく、学校全体の課題、留学生を受け入れる地域全体の課題として取り組んでいくような意識改革が必要である。</p> <p>・今年度までは新型コロナ感染症の影響でボランティア依頼が激減していたが、来年度以降、徐々に従来の状態に戻っていくものと思われる。しかし、学生数の減少、学生の経済的な理由、ボランティア経験のない学生の増加等、ボランティア受け入れについての考え方があわ変わってきている現状がある。今後、受け入れ窓口の判断や学生への意識付け等、これまで以上に柔軟な対応が必要であるが、担当教員に負担が偏らないよう、学校全体としての対応が必要とされている。</p>	<p>・東川高校介護職員初任者研修は今年度17名修了</p> <p>※今年度も新型コロナ感染症の影響のため例年参加している地域のボランティア活動や行事の多くが中止となり、地域との交流が著しく減少してしまった。東川町民運動会、上川神社例大祭の白丁奉仕、高校生国際交流写真フェスティバルなど</p> <p>※今年度は、東川町写真甲子園へのボランティア派遣、東川町文化祭には介護福祉科の地域支援活動グループによる体験ブースでの参加、東川町氷まつりへの雪像づくりや雪だるま作成の参加は実施することができた。</p>

最終更新日付 令和5年2月13日 記載責任者 野崎 哲也

## 4 令和4年度重点目標達成についての自己評価

令和4年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p>1、学校運営の重点目標  <b>「コロナ禍にあっても学生の学校生活を守り、教育の質を最大限保障する学校」</b>          新型コロナウイルス感染症から学生の学校生活を守る。なおかつ社会的評価・信頼にこたえる教育の質を学生に対し最大限保障する。専門教育機関として時代のニーズに応える専門職養成をおこなう。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の予防対策を講じながらの3年目の教育活動は、これまでの経験知から可能な限りできうることを模索しての1年間となつた。依然、感染症の猛威の中ではあったが実習、年末全校の音楽鑑賞、こども学科の有観客での卒業記念発表会など実施し、次年度の活動につながる活動となった。</p> <p>1、学校運営の重点目標          「コロナ禍にあっても学生の学校生活を守り、教育の質を最大限保障する学校」として①専門資格の確実な取得②学校評価の実施や教育課程編成委員会活動の実施による学外識者等の意見を取り入れた学校運営をおこなった。</p>	<p>令和5年度はより新型コロナウイルス感染症は沈静化に向かうものと考えるが、従前の教育活動の回復というよりコロナ禍後のあらたな学校教育のあり方を模索する年度となる。伝統を継承しつつも前例にとらわれない発送で学校運営、教育活動に臨む必要がある。</p> <p>1、学校運営          こども学科は豊岡短期大学通信教育部との教育連携を継続し幼稚園教諭の資格が取得を堅持しつつ本校こども学科らしい人材養成をすすめる必要がある。</p>
<p>2、教育活動・学修成果・学生支援の重点目標  <b>「コロナ禍にあっても、全学生が自分の目標に到達できる学習を保障する学校」</b>          これまでのコロナ禍の対応の経験値もふまえて、コロナ禍以前の教育活動の回復及び新たな教育活動を模索し全学生に自身の目標に挑戦し到達できる学習を保障する。</p>	<p>2、教育活動・学修成果・学生支援の重点目標である「コロナ禍にあっても、全学生が自分の目標に到達できる学習を保障する学校」として①日常の教育実践の堅持し、②高等教育修学支援制度認定校としての学習支援、③職業実践専門課程認定校としての学習支援、④地域支援活動の継続による学修成果が達成され4学科から101名が卒業することとなった。</p>	<p>介護福祉科は留学生の一層の増加に伴う語学支援、在留指導が一層課題となる。</p> <p>医薬福祉学科は時代の変化、医療制度の改革に対応した専門職の養成のためのカリキュラムの対応が引き続きの課題である。</p> <p>日本語学科は学生のニーズに沿った語学支援また日本文化の体験をとおしての学習支援が必要であり、さらには日本及び日系関連の就労への具体的な支援が課題である。</p>
<p>3、学習環境及び学生募集の重点目標  <b>「コロナ禍にあっても、より豊かな学習環境と充実した学習の機会を提供できる学校」</b>          豊かな自然環境と地域の支援を最大限享受できる学校を目指す。</p>	<p>3、学習環境及び学生募集の重点目標          「コロナ禍にあっても、より豊かな学習環境と充実した学習の機会を提供できる学校」として地域に貢献できる人材の養成として学生の大部分が専門職として就労する。</p>	<p>2、教育活動・学修成果・学生支援          学生個々人の学習目標を的確に把握し学習支援する取組は日常の積み重ねである。日常の教育活動の質を高める取組が課題である。</p> <p>3、学習環境及び学生募集の重点目標          上記の目標のためには日常の学習環境の維持整備を今後も継続する必要があり課題である。</p>

